

## 報告題名・報告者名・報告の要旨

第64回高知県人権教育研究大会での報告題名、報告者所属、報告の要旨を掲載します。  
分科会ごとに掲載していますので、一覧表と併せてご覧ください。

### 1-A 高知県立人権啓発センター（午前の部）

#### ◇ 一人ひとりが大切な存在

（高知市立一宮保育園）

4歳児ゆりぐみ22人で過ごしてきた一年。

一人ひとりが大切な存在だということ子どもたちと一緒に考えてきたことや、生活の中で伝えてきたことと大事にしてきたことをレポートにしました。

#### ◇ 友だちのなかで

（土佐市社会福祉事業団 高石保育園）

初めての3、4、5歳児混合クラスという異年齢の集団のなかで、Aさんの変化を通して友だちの存在の大切さ、影響し合いながら育っている事に気づかされた。

#### ◇ 自分も友だちも大切に、安心できる学級をめざして

（須崎市立新荘小学校）

今年度は6名の1年生が入学してきた。その中で唯一の女子Aは控えめな性格であり、小学校生活は不安だらけのスタートであった。そこで、全員が安心して過ごせる楽しい学級をめざし、「温かい集団づくり」「自己肯定感を高める」ことを重点に取り組むことにした。友だちとのかかわりを通して、Aの表情も明るくなり、学級全体が互いに認め合えるようになってきた。

### 1-B 南国市スポーツセンター（午後の部）

#### ◇ 一人ひとりの大切さ

（高知市立長浜保育園）

3歳児クラスでの子どもたちとの関わりや姿から気づくことや学びがたくさんあったので1年間を通しての発表になります。日々の積み重ねを大切にしながら長い見通しを持って関わることで、子どもたち一人ひとりが持っている輝きや力を改めて感じました。そして、これからも子どもたちが「明日も保育園に来たい！」と思えるような毎日をめざしていきたいです。

#### ◇ 子どもたち一人ひとりのよりよい生活を目指して

（土佐市立新居小学校）

新居小学校が目指す「日本一笑顔があふれる学校」に向け、子どもたちのよりよい成長や発達のために子ども自らが主体的に基本的生活習慣の課題を見つけ、改善していく取り組みを紹介する。

#### ◇ Aの居場所

(高知市立一宮中学校)

担任を持つことになった2年生の学級にAがいた。Aは小学校から不登校傾向であり、中学校に入學しても学校に気持ちが向いていなかった。そこで、学校組織がそれぞれの役割を担いAと関わり続けた。Aが特別支援学級入級を通して、自信を持ち、少しずつ変化してきた経緯を報告する。

#### 1-C 高知市勤労者交流館(午前の部)

#### ◇ 自分らしさを発揮できるように

(高知市立かがみ幼稚園)

自分の気持ちを表現することが苦手だった3歳児のAさんの事例を通して、子どもが自分らしさを発揮し、安心して園生活が送れるようになるための保育者の関わりや環境構成の工夫、家庭との連携について学んだことを報告したい。

#### ◇ 自分も友達も大切に

(土佐市立高岡第一小学校)

全体的には落ち着いているが、Q-Uアンケートでは非承認群が比較的多い学年である。本年度本校では、自己肯定感を高めるために3つの柱を決めて全校で取り組んでいくことにした。その3つの柱について、本学年では1学期どのような取組をしたかを報告する。

#### ◇ 思いと想い・心をつなぐ

(須崎市立須崎小学校)

今回報告する児童は、特別支援学級に在籍している2年生である。昨年度から教員として働き出して感じた自分自身の葛藤と、子どもなどとの関係作りがうまくいかなかった経験を踏まえ、児童との関わり方を考え出した。「自己決定」をテーマに、私自身の思いも伝えながら、児童の意思を尊重しつつ関係を作っていた1学期の活動報告だ。

#### 1-D 高知市勤労者交流館(午後の部) 受付12:45~分科会13:05~16:45

#### ◇ 「もっとあわつくって」

(香南市立赤岡保育所)

Aは生活リズムの乱れから、情緒の不安定さや思いを表現する力の弱さが見られる。まずは保育者を心の拠りどころとし、安心して自分の思いを保育者に伝えたり、クラスのなかに自分の居場所を見つけたりし、自己を発揮することへとつながるように取り組んでいる。

#### ◇ 子どもの育ちと親の育ち

(土佐市社会福祉事業団 波介保育園)

自然いっぱいの環境の中、子どもたちの育っていく過程、その中で、自分の子育てを悩んでいる母親と出会い、関わりを大切にしながら、子育てをたのしいと思ってもらえるような取り組みを進めている報告です。

◇ 「仲間とともに高め合う集団（人間性・社会性・学力）を目指して」

（須崎市立須崎中学校）

3つの小学校が集まる須崎中学校では、同じ出身の小学校で固まりがちになり、新たな人間関係を築くことが苦手という課題があります。その課題を改善するために2年団が取り組んできたことと成果、そして今後の課題について報告します。

1-E 高知市自由民権記念館（午後の部）

◇ “心と心の響き合いを大切に”～Aさんとともに～

（須崎市立安和保育園）

Aとの関わりを通して、安心して過ごすために保育者がどう関わっていくのか考えながら、子どもたち一人ひとりの育ちを見通し、子どもたちがまず安心して自分らしく過ごせる環境づくりを職員間で連携しながら取り組んでいる。

◇ 意識させるための手立てと子ども同士の関わり

（高知市立五台山小学校）

第2学年学級全体で「ほかほか言葉をつかおう」という、あったか言葉での取り組みと、人前に立つことが苦手なA、Bへのかかわりについての報告。

友達への声のかけ方を指摘する言葉から優しい言葉に変えて関わる様子の変容や子ども同士の関わり合いの大切さについて学んだことを報告したい。

◇ 専門高校の学びの特色を生かした人権教育の推進

農業教育を通して、命の尊さや豊かな心、温かい人間関係を育てる

（県立幡多農業高等学校）

2年間の研究を通して、全教職員が普通の授業の価値に気付き、人権意識を高めて、日々の教育活動全般を通して実践していくことができれば、生徒の人権意識も高めることができるのではないかと。さらには「はたのう」の教育力の向上にも繋がられると思われる。

1-F 高知市長浜市民会館（午前の部）

◇ Aの思いに寄り添って

（香南市立香我美幼稚園）

隣接する保育所からの新入児のAは4歳児で、新しい環境に戸惑う姿はあったものの、身の回りのことなど自分でしようとする姿も見られていた。保育者はAと関わるなかで、Aの不安や甘えの受け止めが十分でなかったことに気付き、関わり方を見直し、Aのよさが遊びを通して友達に伝わるようにしている。家庭と連携し、園生活の中でAが自分の思いを表現し、安心して生活できるようにしていくための実践報告である。

◇ お互いを認め合える温かい学級をめざして

（高知市立朝倉小学校）

小学校最終学年になり、まだまだ落ち着かない子どもたちを目の前に、温かい学級をめざして、ど

のように取り組んだかの報告。学級担任と子どもたちとの関係だけではなく、子どもどうしのつながりが見え始めてきたことを報告したい。

◇ 2022年度 日高村立日高中学校人権教育の取り組み

(日高村立日高中学校)

日高中学校における人権教育目標「豊かな人権感覚をそなえ、よりよい社会の実現を目指す」とする生徒の育成」を目指した取り組みの報告。

1 - G 高知市朝倉総合市民会館 (午後の部)

◇ おひさまのように包み込んで～いっしょに笑って～

((社福)須崎市保育協会立おひさま保育園)

担任と支援保育士と共に、4歳児クラスについてみんなで意見を出し合い一人の気づきをみんなのものとしていきました。そして、保護者の「声なき声」に心を傾け、保育園に集うみんながおひさまのように、笑顔いっぱい過ごせるよう取り組んできたことをレポートにしました。

◇ 日々の実践を通して人権意識を養う

(南国市立北陵中学校)

現2年団が、入学時より大切にしてきた仲間づくりと人権意識醸成の基盤づくりについて報告する。日々の教育活動や授業実践、学校行事等を通して仲間と協働する喜びを味わい、健全な人権感覚を養うことについて一例を紹介する。

◇ みんな なかま てとてをつなごう～朝倉三町子ども会2021年度の活動より～

(高知市朝倉児童館)

「自分でもどうしていいのかわからん。」自尊感情の低さからくる自己否定感が強く、学校や家庭での居場所がない子どもたち。認められることの嬉しさを感じられるような場面を多く取り入れた昨年度の活動について報告します。

1 - H 南国市長岡西部体育館 (午後の部)

◇ 友だち大好き、先生も好き

(須崎市立吾桑保育園)

Aさんの思いに寄り添いながら取り組んできました。持ち物や予定には、絵カードで視覚支援をしたり、好きな恐竜や昆虫を介して友だちと共感しあったり…。母親からは「ありのままを受け入れる」ことの大切さを学びました。

◇ ともに学び、ともに支え合う集団づくりを通して

(土佐市立宇佐小学校)

自分を大切に、友だちの良さを認め合い、ともに学び合うことのできる集団を目指し、各学年・学校全体で、教育活動全般を通して子どもたちが仲間とともによりよく学び合い、成長しようとする心を育てる実践事例である。

## ◇ K君との出会い

(香美市立鏡野中学校)

小学校からの引継ぎ文書には、複数回に及ぶ手術、長期の入院、学校内での活動の様々な規制が書かれていた。保護者の「友だちとの関係への不安」の解消を第一とし、安心して学校生活をおくれる人間関係の構築を目指した。

## 1-I 南国市立中央市民館 (午前の部)

### ◇ 「～Aの育ちに寄り添って～」

(香南市立吉川みどり保育所)

外国籍の1歳児Aとかかわる中で、Aの家族も交えて言葉や文化・宗教・生活様式の違いを理解しどう乗り越えていくか。信頼関係をきずくために園全体で取り組んでいる姿が、具体的な内容で分かりやすく描かれている。

### ◇ 養護教諭としてできること～子どもたちからのSOS～

(高知市立朝倉小学校)

新型コロナウイルスの影響で生活が変化している中、不登校児童生徒は各校種で増加し、課題となっている。そのような中で、保健室になら来ることが出来るという保健室登校の子どもたちが自分らしく輝くことができるために、養護教諭としてどのような支援ができるのかを考え、実践したことを報告する。

### ◇ 金持ちより人持ち・・・『縁』する人に感謝して

(土佐市立高岡中学校)

「15の春」を笑顔で迎えるために、生徒たちは仲間と励まし合うことを大切にしていきました。「金持ちより人持ち」を合言葉に「縁」する人に感謝する生徒の成長の過程を報告します。

## 1-J 高知県立人権啓発センター (午後の部)

### ◇ 北原保育園のとりくみ

(土佐市社会福祉事業団 北原保育園)

- ・全園児 (0歳児～5歳児)
- ・自然豊かな北原で様々な自然に触れ、命の大切さを学びあっている。

### ◇ Aとの2年間

(高知市立介良小学校)

2年生で不登校傾向になったAさん。本報告は、担任や他の教職員、カウンセラーなど学校全体でのかかわりや、仲間とのかかわりの中でのAさんの変化や、その間の取り組み、仲間の様子などを記した2年間の実践報告である。

### ◇ 「相手意識を持つということ」

(香南市立香我美中学校)

自分だけではなく、仲間のことも思い、頑張る生徒が応援され報われる集団づくりをめざし、取組んできた内容を報告。校内合唱コンクールの出来事で、生徒たちの状況に変化、生徒たちの心の叫びが一部の生徒に伝わり全体へ、コンクールは成功することとなる。しかし、次々と新しい課題で出てくる。自分だけではなく仲間を大切にすることを芽生えさせるために、生徒たちとともに学んでいく。

## 2-A はるのピアステージ（午前の部）

◇ あたたかいまなざしを園全体で育てていくために

（高知市役所保育幼稚園課介良西部保育園）

保育者が子どもたちや保護者の思いに気づき、認め、ほめることを大切にするなど、自分自身を振り返り成長することをいとわなければ、あたたかいまなざしや関わりが生まれることが実感できた。2歳児から3歳児の子どもたちとの関わりを通して学んだことを報告したい。

◇ 「G・N友」—自分らしさを大切にしながら仲間とつながる特別活動—

（南国市立後免野田小学校）

自分らしさを大切にしながら仲間とつながる特別活動の経験を重ねることで、児童に豊かな人権感覚を育むことができるだろうと期待し、実践に取り組んだ。学校のリーダーである6年生23名の1年間を、学級活動（1）の実践と学校行事の進め方を具体例とし、紹介する。

◇ Aさんとのかかわりを通して

（宿毛市立東中学校）

特別支援学級の生徒が通常学級の生徒と関わりながら成長したこと。それに伴い、Aくんとの関わりの中での報告者自身の変化について。

## 2-B 高知市自由民権記念館（午前の部） 受付8:45～分科会9:15～12:45

◇ Aとの関わりを通して

（高知市立潮江東小学校）

初任者として赴任し、初めての学級経営を行う中で学んだことの報告。様々な課題を持つ焦点児Aに対し、チーム学校としての組織的な対応に支えられながら、支援を行うことで、少しずつ変容していくAや教師の姿を報告したい。

◇ 自分も仲間も大切にできる児童の育成を目指して

（四万十市立中村南小学校）

本校では、6年間を見通し系統的な同和問題学習に取り組み、教育活動全体を通して一人ひとりの自尊感情を高めることで、自分も仲間も大切にできる児童の育成を目指している。また、中村中学校区7校の小学校と同和問題学習の核心指導の基本プランを共有し、人権学習の学びに差がでないように中学校へつなげている。

◇ 「インターネットによる人権侵害」（情報モラル）への取り組み

（土佐市立蓮池小学校）

学校でも一人一台の端末利用となり、個人のスマホを持つ児童も増え、友達同士のネット上のトラブルも耳にするようになってきた。学校でのネット上における人権問題への取り組みが必要となり、その実践例をまとめた。

## 2-C 高知市朝倉総合市民会館（午前の部）

### ◇ つながり合おう！「新しい伝統」を作り「愛されて」卒業する学年をめざして

（高知市立潮江小学校旧6年団）

4年生の時に厳しい状況にあった子どもたちを5・6年生で担任してきて、学年として取り組んできたこと、大切にしてきたことや子どもたちの変容について報告する。

### ◇ 児童の主体性を育む人権教育の実践

（土佐清水市立下ノ加江小学校）

2021年度の取組の成果と課題。

### ◇ 現在に求められる人権教育研究を模索して

（宿毛市立片島中学校）

一般社団法人山口県人権啓発センターの川口泰司さんの講演をきっかけとした、片島中学校の人権学習を通して、差別とどうたかかっていくべきかを考える教育の在り方を共有する。

## 3-A 南国市立中央市民館（午後の部）

### ◇ Aの気持ちに寄り添って・・・

（香美市立香長小学校）

得意なこと苦手なこと等を理解し、困ったときはどうすればよいか一緒に考えながら支援してもらいたいという保護者の願いに答えるためにも、Aが楽しく学校生活を送るためにも、Aの思いに寄り添うことが大事だと気付いた。

### ◇ Aさんとの3年間

（高知市立鏡小学校）

様々な不安を抱え、不登校傾向にあったAさんへの4年生から6年生の3年間の支援についての報告。担任だけでなく、教職員間で共通理解を図って支援をすることや本人や保護者の思いに寄り添うことの大切さについて学んだことを報告したい。

### ◇ みんなで支えたAの進路保障

（高知市立青柳中学校）

Aは中学校に入学後、不安定な家庭環境と思春期の気持ちの変化から学校に来ることができない時期が長かった。その間、小学校や事務職員、生徒指導、養護教諭、学年団、担任など様々な教員が関わることで、家庭環境の不安をクリアし、そして3年生になってAは自分の進路に向かっていく。

### 3-B 高知市青年センター（午後の部）受付12:45～分科会13:05～16:45

#### ◇ 児童の実態に寄り添い 児童と共に試行錯誤を繰り返しながら 全員で進んで行く取り組み

（黒潮町立伊与喜小学校）

本校は、今年度6年生1名、教職員3名という規模の学校である。その中の6年生の生徒の変容に焦点を当てて報告する。マイナスと思える環境を逆に活かすこと、他者により良い関係を結びつつ実体験を通じて学ぶことの有効性を改めて実感させてもらった。

#### ◇ みんななかま～手を取り合って～

（香南市立香我美小学校）

言語・宗教・文化・生活習慣などの違いのあるネパールから転入してきた子どもの多様性を受け入れ、学級の一員として安心して過せる居心地の良い学級づくりを目指している。子ども自らが、事前にネパールの国の事を調べたり、イラスト付きひらがなカードを積極的に作成し、「異文化理解」や「困り感」に積極的に関わろうとしている。

保護者や教育機関と連携したり、子ども同士のつながりや関わりを大切にしながら、子どもたちの変容や、共に育っていく成長ぶりを報告する。

#### ◇ なかまとのつながり

（高知市立南海中学校）

中学校に入学し、学習や人間関係の不安から不登校傾向になったAに対する支援についての報告。学級担任のみならず、学年団、学校組織全体でのかわりや、学級でのなかまとのかわりをもつことの大切さや、Aや保護者の思いに寄り添いながら進路実現を果たすために大切にしたいことを報告したい。

### 3-C はるのピアステージ（午後の部）

#### ◇ 個を見つめて

（南国市立大湊小学校）

昨年度担任した6年生の実践をまとめました。児童が、学習や生活に意欲を持つようになるためには、どうしたらよいか、自己表現力や自尊感情を高めるためにはどうしたらよいかを考えながら実践しました。

#### ◇ ～大方高等学校 通級の実践と進路保障への取り組みについて～

（県立大方高等学校全日制）

理解に困らない生徒と理解に苦しむ生徒が、共に同じ場所で共に学びあい、理解が追いつかない生徒においてはケースバイケースの合理的配慮をうけながら一緒に教育を受ける「インクルーシブ教育」はまさに人権教育であり、通級による指導は人権教育であると考えている。

#### ◇ 進路実現に向けて

（高知市立義務教育学校行川学園）

自己肯定感や自己有用感の乏しさもあり、学校生活への適応に課題の見られたAが、自己選択



・自己決定の機会を増やすことによって成長したこと、支援において“待つ”ことを大切にしたかわりなどについて報告します。

### 3-D 南国市スポーツセンター（午前の部）

#### ◇ 最重要課題は「生活の自立」～児童にとって必要な学習と最適な支援を～

（南国市立長岡小学校）

自閉症・情緒障害学級として入学し、2年生から知的障害学級に種別変更した児童についての実践。種別変更により飛躍的に成長した児童の姿から、児童にとって個別最適な学びがいかに大切であるかを感じたレポート。

#### ◇ 「学力保障と進路保障」

（高知市立潮江中学校）

中学校3年間を遠して、いろんな友達、教師と関わり成長していったAについて書いたものです。生徒と信頼関係を築きながら、学校で過ごしやすい環境を作っていく中で、成長をしていったと思うことを書いています。

#### ◇ 苦手意識を克服したA

（香南市立赤岡中学校）

入学当初はいわゆる低学力で、書き写すことや漢字が書けなかったA。その背景には自信のなさが影響しており、自己肯定感を育む必要があった。自分の文字が読めない失敗を認めてくれる空間、また主体的に学ぶことで学力が上がるきっかけとなった理科の実験など、本校の仲間づくりや授業づくりがAの自己肯定感の高まりにつながったといえよう。苦手意識を克服したAはいま、3年生の代表委員として活躍している。

### 4・5-A 高知市青年センター（午前の部）受付8:50～分科会9:05～12:45

#### ◇ 学校、がんばりたい！～家庭・学校・地域と共に歩みつづけた3年間～

（香美市立山田小学校）

「学校には行きたくないけど、集会所なら行く。」と言って、集会所（子ども会）には、顔を出すA。学校には来なくても子ども会には行こう。母親と学校に配付物を取りに来る。この2つの決め事から地域ぐるみの不登校支援に取り組む。

#### ◇ みやでら子ども会活動報告 ～だれもが安心できる居場所づくり～

（宮寺集会所）

「つなぐ・つながる・つなげる」をキーワードにした日常の子ども会活動や行事の取り組み、LGBTに関する資料の掲示や肯定的な言葉掛けで、だれもが安心できる居場所づくりへ。

#### ◇ 認知症に関する事業をとおして～チームオレンジの取り組みから～

（黒潮町役場健康福祉課）

認知症の支援において、家族の支援に焦点をあてることで、認知症の方のQOLも同時に向上するこ

とが期待できる。チームオレンジの活動を通して、悩みやニーズを捉えながら身近によき理解者を増やし、家族の介護負担感を減らし、認知症の方の人権を守る地域にしていきたい。

#### 4・5 - B 高知市長浜市民会館（午後の部）

##### ◇ 災害から命を守る佐賀の町～安心・笑顔で過ごせる町へ～

（黒潮町立佐賀中学校）

災害弱者である高齢者の命を守るために、中学生として何ができるかを考えていくことで、改めて誰の命も大切にされる安心・安全な町にしていきたいという思いが高まってきたように感じる。生徒一人ひとりが主体的に人権を考え、行動に移していける力を育てていきたい。

##### ◇ ～よりどころ・居心地のいい場所として～

（高知市長浜児童館）

長浜児童館創立時からの4つの約束をもとにした日々の活動と、人権学習（児童館での計画・立案し、定期的に地域学習を中心とした部落問題学習）についての取り組み。児童館が地域にとって大切な居場所・拠り所となっている。

##### ◇ 相続権という権利

（日高村役場住民課）

日高村役場住民課における業務のなかで、自身が担当している戸籍事務と人権問題の関わりについての報告。

#### 4・5 - C 南国市長岡西部体育館（午前の部）

##### ◇ 朝倉第二小学校で学んだこと

（高知市立朝倉第二小学校）

朝倉第二小学校に赴任して10年。多くの児童や地域の方、そして同僚との出会いがあった。学級担任や人権教育主任として関わっていく中での忘れられない出来事。そこから学んだことや、自分自身の人権感覚の変容について振り返る。

##### ◇ 「全国水平社宣言」創立100年～識字は宝島～

（高知市西山識字学級）

今年は「全国水平社」創立から100年の節目であること。また、西山識字学級でのできごとや、講演先の小学校6年生からもらった感想文などを報告したい。

##### ◇ 未来へつなぐ和太鼓

（長岡西部スマイルファクトリー）

団体名称を変更することになった経緯、新型コロナにより活動ができない中、後世にも残していけるよう、和太鼓のPV撮影に取り組み、地域の人たちの支援のありがたさや、自分たちの活動がしんどい子どもの居場所にもなっていることを再確認できた。